大阪大学経済学研究科/経済学部

部局間協定校派遣生の海外留学体験

１．基本情報

体験談記入日（☆）	2025 年　1 月　29 日
大阪大学での所属学部/研究科（☆）	経済学部経済・経営学科
留学時の学年（☆）	学士 4 年
派遣ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ名（☆）	交換留学
渡航先国名・地域名（☆）	台湾
滞在都市（☆）	台北
留学先大学等名（☆）	国立台湾大学
留学先での所属学部/研究科（☆）	社会科学院　経済学部
留学先で主に使用した言語	英語、中国語
渡航先への入国日（☆）	2024 年　8 月　24 日
渡航先からの出国日（☆）	2024 年　12 月　23 日
渡航先国での滞在期間（☆）	4 ヵ月
同伴者の有無・続柄・年齢等	無
その他	

２．留学先の大学に関する情報

２．１授業に関する情報

履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	Daily Chinese（國際生華語） 2024/09/02～2024/12/16 90 分×15 回 対面授業 2
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	Political Risk Analysis of Domestic Luxury Consumption in China（中國大陸奢侈品消費的政治風險分析） 2024/09/02～2024/12/18 90 分×15 回 対面授業 2
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	

履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	
留学生（日本人）の割合	全体の 1～2 割ほど

成績評価の方法（試験・課題の数や分量等）	Daily Chinese → (毎授業)スピーキングを録音して提出 (期末)教授と１対１で会話 Political Risk Analysis of Domestic Luxury Consumption in China → 授業二関するレポートを２枚提出
履修科目の制限等（あれば）	
（英語圏以外の場合） 英語の使用頻度、英語での授業科目の充実度等について	寮には様々な国の人がいたため、基本的に英語を用いて会話した。授業に関しては、英語を用いた授業が十分にあり、選択肢が沢山あったと思う。
語学に関するｻﾎﾟｰﾄ(特別授業、ﾁｭｰﾀｰ、ｴｯｾｲﾗｲﾃｨﾝｸﾞに関するｻﾎﾟｰﾄ等)	特になかった。
授業内での留学生に対するｻﾎﾟｰﾄ等	特になかった。
その他	

２．２福利厚生に関する情報

大学内での福利厚生施設(生協・購買・食堂)について	食堂が非常に安くて旨かったためよく用いていた。特に、大学の外で野菜を食べられる環境が少なかったため、食堂の野菜をよく食べていた。また、コンビニは 24 時間空いているため、非常に重宝した。
図書館について	図書館には日本語の本も多くあり、私は阪大出版の中国語学習本を借りていた。また、図書館自体が閉まっても、図書館の地下には 24 時間利用できる自習室があり、授業後よくそこで勉強していた。
保健ｾﾝﾀｰ等の有無	利用しませんでした。
ｸﾗﾌﾞ・ｻｰｸﾙ等について	日本人と台湾人が交流できるサークルがある。
留学生へのｻﾎﾟｰﾄ	特になかった。
オリエンテーション等学校主催の行事について	最初の学校案内と説明会を除いて、他の行事はなかったように思える。
現地の学生との交流について	日本人と台湾人が交流できるサークルで出会った人たちと飲みに行ったり、観光スポットに行ったりした。特に、ある台湾人ととても仲良くなり、今でも電話して言語交換の会を設けている。
他の留学生との交流について	授業で知り合った留学生と中山駅でご飯に行ったりした。また、授業の情報を共有し、課題を共にこなすことも多かった。

	授業という同じ目的で集まっていたことから結束感が強く、彼らの国に遊びに行くときには声をかけられる、くらいの間柄にはなれたと思う。
学外での活動について（地域コミュニティー活動等）	多国籍の運動会が開かれていたが、都合により参加できなかった。
長期休暇中の過ごし方	
その他	

３．ビザ・入国・渡航直後の手続きに関する情報

ビザの種類（☆）	Visitor Visa
ビザの取得手続について（申請方法、申請から取得までの所要期間等）（☆）	大阪の中之島にある台北駐大阪経済文化弁事処にパスポートを持っていって手続きし、1～2 週間程度待った後取りに行った。
利用航空会社	タイガーエア
入国の際の現地空港名	桃園国際空港
空港から滞在先への移動について（交通手段や所要時間）	桃園空港 MRT を利用し、台北中心まで 1 時間で到着
入国審査について（提示した書類、審査官からの質問等）	パスワードとビザのみで質問はナシ
渡航後の手続き（在留届の提出、外国人登録等）	特になかった。
その他	

４．金銭に関する情報

奨学金の受給	有
奨学金名	70 周年記念事業　海外渡航奨学金
奨学金月額受給額（円）	8 万円を 1 度もらった。
入国時に用意した金額	約 40 万
ｸﾚｼﾞｯﾄｶｰﾄﾞについて（ｶｰﾄﾞ会社名・日常の利便性）	三井住友カード
留学中に利用した銀行名	三菱 UFJ 銀行
現地での銀行口座開設について（開設の有無・手続き等）	無
ﾃﾞﾋﾞｯﾄｶｰﾄﾞの使用について	UFJ のデビットを使用
日本からの送金方法について	不明
1 ヶ月の生活費（目安）	約 7～8 万

その他	

５．暮らしに関する情報

５．１住居に関する情報

住居の種類(学生寮(一人部屋・二人部屋）・ｱﾊﾟｰﾄ等)	Airbnb で借りた寮
家賃	3～4 万
住居を探した方法・時期	Airbnb で 10 月頃に探した。
荷物の運搬方法 （ハンドキャリー、国際宅配便（会社名、プランも）等	全て自ら持参
その他	

５．２　食生活についての情報

普段の食事（自炊・食事つき学生寮等）	大学の食堂.夜市,or 日本のチェーン店
1 ヶ月の食費	約 5 万
その他	

５．３　その他日常生活に関する情報

電話について	電話番号は SIM から取得し 1 ヶ月 10 分程かけられたが、基本 LINE 通話を使用した。
ｲﾝﾀｰﾈｯﾄについて（Wi-Fi 環境等）	SIM を空港で購入した。通信料無制限であり非常に使いやすかった。
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰについて	日本から持参したものを使っていた。台湾でも日本でも何も変わらない。
郵便について	使わなかった。
交通機関について	台北市を走る MRT が非常に便利で、基本それを利用した。
治安について	日本と変わらずとても良い。
保険について	日本にいる間に 4 ヶ月間効く保険を 4 万で購入した。
医療機関・薬について	日本の医薬品が少し高いが売っていた。
気候と服装について	雨が非常に多く、あまり晴れた日がなかった。また、11 月でも暖かく、半袖で過ごしていた。12 月に入ると急に寒くなったが、日本ほどではない。
普段の買い物について	薬局やコンビニなどお店が沢山あり、日本と変わらなかった。

娯楽・行事について	サークルで遠足や旅行、飲み会があった。サークルに入らなければこういう機会もないだろう。
日本語の使用について	特に大学のような場所には、日本語が話せる台湾人が多かった。また、当然日本の留学生とはサークルや授業で出会ったため日本語で話した。
日本から持参して特に役立ったもの/持参したら良かったもの	雨が多かったので折りたたみ傘が非常に役立った。
留学前にしておいて良かったこと/しておけば良かったこと	中国語の会話練習をもっとしておくべきであったと思う。
その他	

６．就職活動に関する情報

留学前の就職活動について（セミナー参加、自己分析、業界研究、就活サイト登録等）	渡航前に終了していた。
留学中の就職活動について（海外からの情報収集、企業へのｺﾝﾀｸﾄ、ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ等）	渡航前に終了していた。

７．語学の学習方法について

留学前に準備したこと、語学能力試験対策等	IELTs の勉強をし、高得点を目指した。 また、基礎的な中国語の単語は暗記した。
留学中の学習方法、工夫したこと等	とにかく台湾人と話すことを意識した。
留学後にどれぐらい語学力が伸びたか（主観的な実感や具体的なスコア等）	現在台湾人と週 1～2 回言語交換をしているが、通常より少し遅いスピードで 50～60%くらいは理解出来るようになった。

８．その他

留学して得られたこと	多くの友達、海外で生活する気概、言語力
留学中に困ったこと	言語が通じなかったこと。
留学前/留学中に参考になったウェブサイト等	先輩の留学体験記

９．留学体験談・エッセイ（様式任意）
留学を決めた理由、現地で履修した授業およびその感想、楽しかったこと、大変だったこと、これから留学を考えている後輩へのメッセージ等を１～２ページ(様式任意)で記載してください。また、留学中に撮影した写真数枚（本人も映っているもの）も合わせて提出してください（国際交流室の HP や Newsletter に掲載させていただく可能性があります）。

私は学部 4 年生の 8 月 24 日から 12 月 23 日までの約 4 ヶ月間、台湾大学に留学していました。現地では社会科学院の経済学部に所属し、中国語と経済学を学びました。留学に行こうと思ったのは、2 外で中国語を学んでいて、外国で経済学を学んでみたいと漠然に思っていて、ちょうど学部間で留学の枠があったから、というだけの理由でした。現地でとった授業では台湾だけでなく多くの国の人とふれあうことができ、とても楽しかったと思います。また、日本人も多くいたので沢山知り合えました。

中国語の授業では台湾の中で生活するにあたって、レストランや病院等で必要な実用的な中国語表現を学びました。個々の授業で学んだ表現が、レストランなど 4 ヶ月の滞在の中で実際に使えることもあり､学んでいて中国語の成長を実感することができました｡また期末の時期には、「中国語を用いて家を借りる」というシチュエーションを例にとり、教授と実際に中国語でコミュニケーションをとる口頭テストを行いました。テストを完了した際は、少なからず台湾に留学する前にはなかった中国語の能力を身につけられたことを実感できました。

経済学についてですが、「中國大陸奢侈品消費的政治風險分析(Political Risk Analysis of Domestic Luxury Consumption in China)」という授業を取り、日本からではなく台湾の視点からみた、中国大陸における贅沢品消費の政治的なリスクを英語で分析しました。独裁体制に近い大陸の政治体制の中で行われてきた「反腐敗運動」が、消費にどのような影響を及ぼしてきたのかを考察し、中国経済に対する洞察力や理解を育むことができました。期末レポートでは、中国の受験体制に関して、反腐敗の運動をどのようにして活発化し、受験をより公正なものにするかを過去の事象等用いて分析し、大陸の受験事情や腐敗度に対する理解も深められました。

寮で住んでいたときは、空気が汚い、他の住民がケンカしている、などなど多くのトラブルもありましたが、ある意味そういうトラブルを乗り越えたことも大きな財産になったかなと思います。授業でも言語の問題がありましたが、正直周りの人と協力すればなんとかなったため、コミュニケーション力の面でも、外国人に臆せず話しかけられるようになったかなと思います。

4 ヶ月の生活の中で、日本国内だけでは得られない経験をし、知識を得ることができました。中国語に自信が無くてもあまりビビりすぎず、台湾や中華圏に興味のある方は是非留学を考えてみてほしいと思います。